

卒業生・修了生・就職先調査報告書の概要

令和3年1月
教育推進機構
高等教育企画室

1. 調査概要

(1) 実施時期：2019年12月17日（発送）～2020年1月31日

(2) 実施方法：

- 卒業生・修了生調査：Web調査
- 就職先調査：Web調査と郵送

(3) 回収率

- 卒業生調査 R1：347件 回収率：12.4%（H25：12.5%）
- 修了生調査 R1：55件 回収率：20.4%（H25：24.1%）
- 就職先調査 R1：132件 回収率：35.2%（H25：31.3%）

2. 分析結果の概要

(1) 卒業生調査

①卒業後の自己評価の傾向：

情報収集力（82%）や規律性（71%）、地域課題への関心（70%）を比較的高く評価する一方で、外国語（26%）やキャリアデザイン力（38%）、プレゼンテーション力（42%）を比較的低く評価している。

②在学生に対する助言「コミュニケーション能力」や「外国語能力」等の重要性：

上記の傾向と同様に、自由記述では、学生に在学中に身につけて欲しいこととして、コミュニケーション能力や外国語能力などの発信力に関連する意見が多く寄せられた。

③「情報教育科目」の重要性の指摘：

教育制度・内容の評価について、「情報教育科目」の重要性を指摘する声が高まっている（全学類：70%、各学類別：上位3位）。情報化社会の進展の中で、情報教育科目のニーズが高まっていることが背景にあると推測される。

(2) 修了生調査

①修了後の自己評価の傾向：

自ら学修する習慣（89%）や情報収集力（87%）、大学で学んだ専門知識（85%）を比較的に高く評価する一方で、外国語能力（30%）やキャリアデザイン力（47%）、健康・運動に関する科学的認識（53%）を比較的低く評価している。特に、情報収集力の修得力に関する評価が高い点は、修了生および卒業生調査にも共通した特徴であり注目に値する。外国語やキャリアデザイン力の評価が低い点も、卒業生調査の結果と共通している。

②大学院の教育への高い評価

福島大学大学院の教育の評価について、「授業科目について目標が明確であったかどうか」(85%)、「研究指導は十分に行われたかどうか」(93%)、「自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたかどうか」(83%)、「自主学修のための教員の配慮が十分であったか」(97%)、「修得した学力や能力への満足度」(95%)などの項目では、いずれも高い評価(8割以上の高評価)が見られる。

③「実践的な外国語学修」の頻度と必要の関するギャップ：

修了生調査では、大学院時代の授業の各項目についてどれほど含まれていたか(頻度)、どれほど必要であるかと考えるか(必要)を尋ねている。「専門的知識を身につける」「幅広い知識を身につける」「ディベートやプレゼンテーション」「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」といった項目は、頻度も必要も高いと認識されている。一方、「実践的な外国語学修」を始め、頻度(13%)と必要(70%)のギャップが大きい項目も見られる。こうした意見は大学院プログラム改善のために示唆的である。

(3) 就職先調査

①「多角的・総合的な思考」、「コミュニケーション力」を重視する傾向

就職先の組織(企業や団体等)は卒業生の「多角的・総合的な思考」、「コミュニケーション力」、「自ら人間関係をつくる力」、「必要な場合のリーダーシップの発揮」、「自ら学修する習慣」を非常に高く評価している。

②福大生への高い評価

就職先調査では、福島大生に不足している能力を指摘する声は非常に低調であり、福大生に対する就職先からの評価は高い。自由記述においても、福大生を高く評価する回答が寄せられている。例：「貴大学の学生に関しては、勉学や就職活動に対する意欲の高さを、採用活動で貴大学生と触れ合った際に実感しております」等

③選考時には「学業成績」を重視する傾向

卒業生調査によれば、学生の目線では企業等は就職・採用時に「卒業した大学」を重視していると認知されている。しかし、就職先調査によれば、企業等は就職・採用時に「成績(研究成果含む)」を高く評価しており、両者の間にはギャップが見られた。

3. その他

- ① 学類別や研究科別データは、報告書各章の第2節にまとめた。詳細な回答は、各章の第2節をご参照いただきたい。
- ② いずれの調査の自由記述でも、福島大生に身につけて欲しいことなど、非常に建設的な意見が寄せられている。個人情報保護のため自由記述の掲載を割愛した。